



2025年3月期 第1四半期 連結決算概況

オリンパス株式会社 | 社長兼CEO シュテファン・カウフマン | 執行役 CFO 泉 竜也 | 2024年8月7日

(スライド1)

- CEOのStefan Kaufmannでございます。
- オリンパス株式会社「2025年3月期 第1四半期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



順調なスタートを切りました 2025年3月期は売上高、利益 ともに成長が続くと期待しています”

取締役 代表執行役 社長兼 CEO（最高経営責任者）
シュテファン・カウフマン



（スライド3）

- まず、第1四半期の決算説明会を前向きな形で始められることを嬉しく思います。この3ヶ月は想定通りに回復し、内視鏡事業、治療機器事業ともに堅調に成長しました。販管費もしっかりとコントロールできており、連結業績は計画通りに進捗しました。
- 強力な成長ドライバーである消化器内視鏡システム EVIS X1が引き続き好調に推移したほか、特に北米が牽引し、消化器科処置具、泌尿器科、呼吸器科も顕著な伸びを示しています。この傾向は、2025年3月期を通して続くと期待しています。

第1四半期連結業績

売上高

2,348 億円

+15% / +3%



ESD +16% / +5%



TSD +13% / +2%

調整後営業利益

372 億円

+90 億円

調整後営業利益率

15.9%

+2.1 pt

- ・ 前期比 円ベース為替込み
- ・ 前期比 為替影響調整後

- 1 総合的な品質変革プログラム「Elevate」は、引き続き順調に進捗
- 2 北米は、消化器科、泌尿器科、呼吸器科の3つの注力領域全てで高い成長。前期比+32%（為替影響調整後+16%）の成長を達成
- 3 新興国市場は、特にESDが牽引し、前期比+20%超の成長を達成
- 4 中国の市場環境は、当初の想定を上回る厳しさが継続
- 5 第1四半期の業績は計画通りに進捗しており、期初の見通しを据え置き

(スライド4)

- 現在取り組みを推進している総合的な品質変革プログラム「Elevate」は、米国食品医薬品局（FDA）に対するコミットメントに沿って、引き続き順調に進捗しています。
- 円安の追い風を受け、連結売上高は前年同期比15%の増収となりました。医療サービスは全地域で堅調に推移しています。特に北米では、消化器科、泌尿器科、呼吸器科の3つの注力領域全てで好調に推移し、前年同期比+32%の成長を達成しました。
- また、新興国市場においても力強い成長が続いており、特に内視鏡事業が牽引し、前年同期比+20%超の成長となりました。
- 一方で、反腐敗運動や購入量ベース調達制度、現地での競争激化などの影響を受け続けている中国の市場環境は、当初の想定以上に厳しく、長引いています。
- 一部の地域における不透明な状況に加え、足元における急激な為替変動は強く認識しています。この先も慎重に動向を注視してまいります。第1四半期業績を踏まえ、2025年3月期の見通しについては期初から変更はありません。注力領域において成長を牽引する強固なパイプラインと、確かなビジネスモデルにより、2025年3月期は全体的に堅調な回復が続き、より安定した事業運営を行うことができると見込んでいます。QARAをはじめとする事業運営基盤強化や研究開発、生産性向上のための取り組みに対する戦略的な投資を継続しながら、引き続き適正な費用のコントロールにも努めてまいります。
- それでは続いて、CFOの泉 竜也より第1四半期の業績概況についてご説明させていただきます。

2025年3月期 第1四半期実績 連結業績概況

- 1 売上高：消化器内視鏡システム「EVIS X1」をはじめ、注力3領域全てが好調に推移した北米が牽引。為替の追い風もあり、連結で+15%成長
- 2 営業利益・調整後営業利益：研究開発費や総合的な品質変革プログラム「Elevate」に関する費用が増加したものの、増収を主要因に増益

	第1四半期実績（4-6月）				通期見通し（4-3月）		
	（単位：億円）	FY2024	FY2025	前期比	為替影響調整後	FY2025 最新見通し ²	進捗率
継続事業	売上高	2,050	2,348	+15%	+3%	10,090	23%
	売上総利益 （売上総利益率）	1,356 (66.1%)	1,562 (66.5%)	+15% (+0.4%)	+4%	6,910 (68.5%)	23%
	販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	1,071 (52.3%)	1,188 (50.6%)	+11% (▲1.6%)	+2%	4,940 (49.0%)	24%
	その他の収益および費用など	▲58	▲99	-	-	▲210	-
	営業利益 （営業利益率）	226 (11.0%)	275 (11.7%)	+21% (+0.7%)	+2%	1,760 (17.4%)	16%
	調整後営業利益 （調整後営業利益率）	283 (13.8%)	372 (15.9%)	+32% (+2.1%)	+14%	1,975 (19.6%)	19%
	税引前利益 （税引前利益率）	198 (9.7%)	264 (11.2%)	+33% (+1.6%)	-	1,700 (16.8%)	16%
	当期利益	2,406	146	▲94%	-	1,210	12%
	親会社の所有者に帰属する当期利益	2,406	146	▲94%	-	1,210	12%
	非継続事業						

¹ 「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
² 期初の見通しより変更なし。整形外科事業が非継続事業に分類されたことに伴い、組み替えて表示

（スライド5）

- CFOの泉でございます。
- 私から2025年3月期 第1四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。
- 先日適時開示を行いました通り、7月に整形外科事業を譲渡しました。それに伴い、整形外科事業を非継続事業に分類しておりますので、本日は継続事業を中心にご説明いたします。
- 売上高は為替の追い風もあり、前年同期比15%の成長となりました。消化器内視鏡システム「EVIS X1」などの販売が好調に推移した北米が牽引し、医療分野は第1四半期として過去最高の売上高となりました。
- また、当社が注力する消化器科、泌尿器科、呼吸器科は、3領域全てで二桁成長を実現しています。
- 営業利益は275億円と前年同期比21%の増益です。次世代内視鏡システムなどに関わる研究開発費や、総合的な品質変革プログラム「Elevate」に関する費用が増加したものの、増収による売上総利益の増加により、営業増益となりました。
- 調整後営業利益は372億円、前年同期比で32%増加しました。調整後営業利益率は2.1ポイント改善し、15.9%でした。
- このように今回の決算は為替の追い風を大きく受けておりますが、為替影響調整後ベースでも、売上高は3%の増収、調整後営業利益は14%の増益でした。
- 通期見通しは整形外科事業が非継続事業に分類されたことにより、組み替えが生じておりますが、期初の見通しに変更はありません。
- 売上高、調整後営業利益ともに期初の見通しに対して順調な進捗となっております。

2025年3月期 第1四半期実績 内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2024 1Q	FY2025 1Q	FY2025 通期見通し	進捗率
売上高	1,271	1,474	6,450	23%
営業利益	222	274	1,620	17%
その他の収益および費用	▲34	▲52	▲125	-
調整後営業利益	256	326	1,745	19%
営業利益率 (為替影響調整後)	17.4%	18.6% (17.4%)	25.1%	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	20.1%	22.1% (21.1%)	27.1%	-

FY2025 vs FY2024 (4-6月) 売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

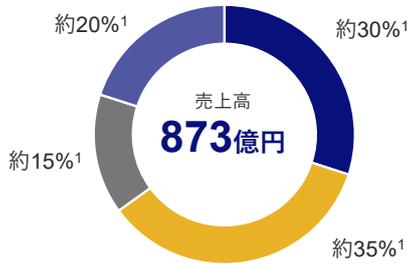
■ 消化器内視鏡	15%	消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売が好調な北米で+62%の成長。一方、反腐敗運動などの影響により中国で減収。「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡の中で約30%	4%
■ 外科内視鏡	7%	北米で減収の一方、欧州で増収。外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」等が堅調に推移	▲2%
■ 医療サービス	21%	保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上加え、新規契約の増加もあり、北米・欧州を中心に全地域でプラス成長	8%
合計	16%		5%

¹ 四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

(スライド6)

- 次に各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は前年同期比16%の成長でした。その他の収益および費用を除外した調整後営業利益は326億円と前年同期比で大幅増益、調整後営業利益率は22.1%と利益率も改善しています。
- 各領域の事業概況ですが、消化器内視鏡では、消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売が好調な北米で+62%の成長となりました。一方、反腐敗運動などの影響により中国で減収となりました。
- 外科内視鏡では、北米で減収の一方、欧州で増収となり、外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」等が堅調に推移しました。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や新規契約の増加などもあり、北米・欧州を中心に全地域でプラス成長となりました。

2025年3月期 第1四半期実績 治療機器事業



(単位: 億円)	FY2024 1Q	FY2025 1Q	FY2025 通期見通し	進捗率
売上高	772	873	3,630	24%
営業利益	97	103	545	19%
その他の収益および費用	▲19	▲37	▲75	-
調整後営業利益	116	139	620	22%
営業利益率 (為替影響調整後)	12.5%	11.8% (11.9%)	15.0%	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	15.0%	16.0% (16.3%)	17.1%	-

FY2025 vs FY2024 (4-6月) 売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

■ 消化器科処置具	15%	■ 北米や欧州を中心にプラス成長。肝胆膵疾患（内視鏡的逆行性胆道膵管造影術(ERCP)製品など）や止血関連の製品群の売上が増加	5%
■ 泌尿器科	18%	■ 北米や欧州を中心に好調に推移。尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」や前立腺肥大症(BPH)用の切除用電極の拡販が奏功	5%
■ 呼吸器科	24%	■ 北米や欧州を中心にプラス成長。超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)で主に使用される超音波気管支鏡や処置具が好調に推移	11%
■ その他の治療領域	▲4%	■ 他社製品の取り扱い終了の影響を受けた日本で減収	▲13%
合計	13%		2%

¹ 四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

(スライド7)

- 治療機器事業です。売上高は前年同期比13%と成長しました。その他の収益および費用を除外した調整後営業利益は139億円と前年同期比増益、調整後営業利益率は16.0%と内視鏡事業同様に治療機器事業の利益率も改善しています。
- 各領域の事業概況ですが、注力3領域である、消化器科処置具、泌尿器科、呼吸器科のすべての領域で、北米や欧州を中心にプラス成長となりました。
- 消化器科処置具では、肝胆膵疾患や止血関連の製品群の売上が増加しました。
- 泌尿器科では、尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」や前立腺肥大症用の切除用電極の拡販が奏功しました。
- 呼吸器科では、超音波気管支鏡ガイド下針生検で主に使用される超音波気管支鏡や処置具が好調に推移しました。

連結財政状態計算書

- 1 長期借入金の返済及び配当金の支払いにより、現預金が減少
- 2 整形外科事業の譲渡に伴い、売却目的で保有する資産および、それに直接関連する負債が増加

(単位：億円)	2024年3月末	2024年6月末	増減額		2024年3月末	2024年6月末	増減額
流動資産	8,003	7,366	▲637	流動負債	4,317	4,192	▲125
現金及び現金同等物	3,409	2,744	1 ▲665	社債および借入金	700	699	▲1
棚卸資産	1,900	1,904	+4	その他の流動負債	2,999	2,873	▲125
売却目的で保有する資産	1	125	2 +125	売却目的で保有する資産に直接関連する負債	-	40	2 +40
非流動資産	7,339	7,788	+449	非流動負債	3,453	3,061	▲392
有形固定資産	2,600	2,729	+129	社債および借入金	2,296	1,846	▲450
無形資産	920	945	+25	資本	7,572	7,901	+329
のれん	1,803	1,922	+119	自己資本比率	49.4%	52.1%	+2.7pt
資産合計	15,342	15,154	▲188	負債および資本合計	15,342	15,154	▲188

(スライド8)

- 2024年6月末の財政状態です。
- 総資産は前期末比188億円の減少となりました。
- 長期借入金の返済及び配当金の支払いにより、現預金が減少したことが主な理由です。
- また、整形外科事業の譲渡に伴い、「売却目的で保有する資産」および「売却目的で保有する資産に直接関連する負債」は増加しました。
- 自己資本比率は前期末比で2.7ポイント増加し、52.1%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- 1 FCF：前期はエビデントの譲渡があったため、FCFは前年同期比で大きく減少しているものの、特殊要因を考慮した調整後FCF¹は148億円のプラス
- 2 財務CF：長期借入金の返済や配当金支払を主要因に、775億円のマイナス

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)		FY2024	FY2025	増減	
継続事業	非継続事業	税引前利益	198	264	+66
		営業キャッシュフロー（営業CF）	▲531	233	+764
		投資キャッシュフロー（投資CF）	4,270	▲152	▲4,421
		フリーキャッシュフロー（FCF）	3,739	81	▲3,658
		調整後フリーキャッシュフロー（調整後FCF）	▲103	148	+250
		財務キャッシュフロー（財務CF）	▲259	▲775	▲516
		現金および現金同等物期末残高	5,587	2,760	▲2,828

2024年3月期 第1四半期（4-6月）の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲567億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,888億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円

2025年3月期 第1四半期（4-6月）の主な特殊要因

営業CF：社外転進支援制度の引当金取崩しによる支出	▲18億円
営業CF：Veran Medical Technologies社の撤退に関わる支出	▲11億円
投資CF：投資有価証券の取得による支出	▲67億円
投資CF：買収解除に伴う買収対価の戻り	+30億円

¹「その他の収益・その他の費用のうちキャッシュイン、アウトしたもの」、「M&A関連支出」、「構造改革関連支出」を調整

（スライド9）

- キャッシュフローの状況です。
- 前年同期にはエビデントの譲渡による影響が含まれているため、一見キャッシュフローが大きく減少しているように見えますが、特殊要因を調整したフリーキャッシュフローは前年同期と比較し改善しております。項目ごとに見ていきます。
- 営業キャッシュフローは、233億円のプラスとなりました。税引前利益の増加や減価償却費および償却費の調整などにより前年同期比増加となりました。
- 投資キャッシュフローは、152億円のマイナスとなりました。主な要因は、有形固定資産、無形資産および投資有価証券の取得による支出です。
- フリーキャッシュフローは、81億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後のフリーキャッシュフローは148億円のプラスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、775億円のマイナスとなりました。長期借入金の返済、配当金の支払いを行ったことが主要因です。
- 結果、2024年6月末の現金および現金同等物残は2,760億円となりました。

OLYMPUS

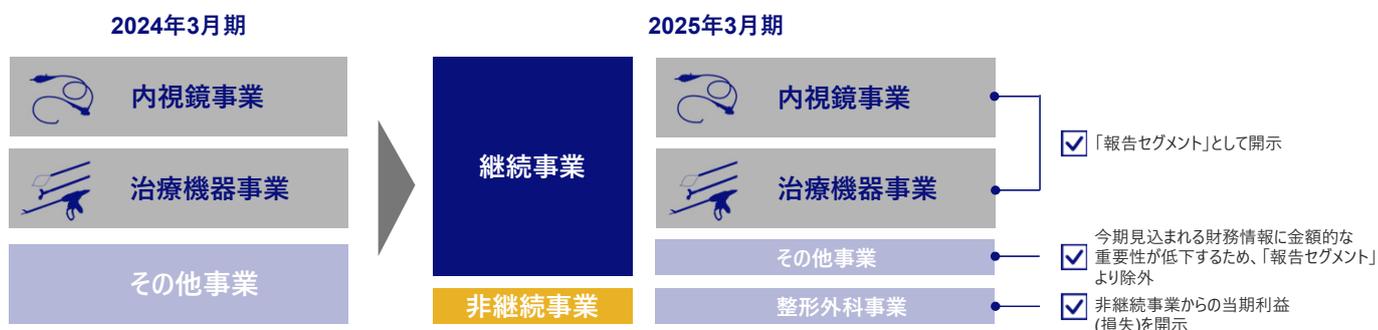
(スライド10)

- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

参考資料

開示の変更点

整形外科事業の譲渡に伴い、2025年3月期より、その他事業に含まれていた整形外科事業を非継続事業¹として開示「報告セグメント」²を内視鏡事業と治療機器事業の2区分に変更（国際会計基準）

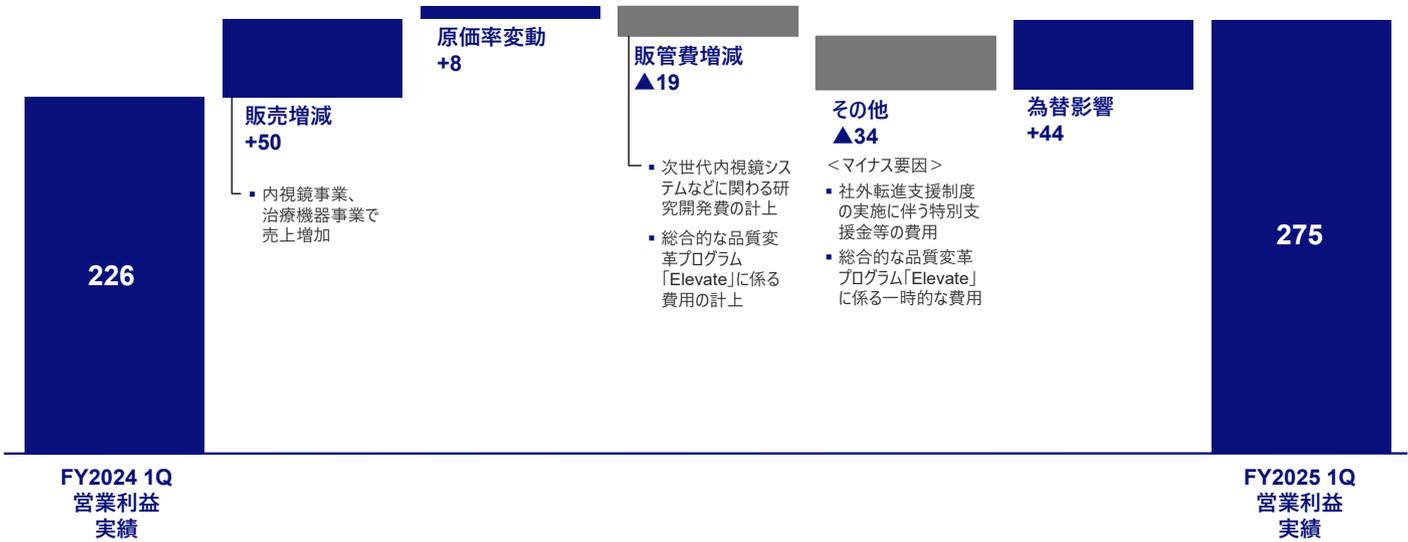


¹ 当第1四半期連結会計期間において、当社は、PTCJ-6Oホールディングス株式会社及びPTCJ-6Fホールディングス株式会社（ボリス・キャピタル・グループ株式会社が設立した特別目的会社。以下「ボリス・キャピタル・グループ」と総称します）に対して、オリンパスバイオリアル株式会社およびFH Ortho SAS社から構成される整形外科事業を譲渡することについて、ボリス・キャピタル・グループとの間でプット・オプション契約を締結しました。これに伴い、当第1四半期連結累計期間より、整形外科事業に関わる損益を非継続事業に分類しており、前第1四半期連結累計期間についても同様の形で表示しています。なお、売上高、営業利益、調整後営業利益、税引前四半期利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、上記のプット・オプション契約に基づき、整形外科事業については、2024年7月12日に譲渡を完了しました

² IFRS8.5-10「事業セグメント」の要件を満たすセグメントの内、集約基準(IFRS8.12)、量的基準(IFRS8.13)を考慮して決定されたセグメントを指します。これらの基準に基づき、当社グループは、従来「内視鏡事業」「治療機器事業」及び「その他事業」の3区分を報告セグメントとしていましたが、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントを「内視鏡事業」及び「治療機器事業」の2区分に変更しており、前第1四半期連結会計期間についても同様の形で表示しています

2025年3月期 第1四半期実績 連結営業利益増減要因

第1四半期実績 (4-6月)



(単位：億円) * 本スライドでは継続事業の金額を表示しています。また、「その他」には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2025年3月期 第1四半期実績 セグメント別概況

		第1四半期実績 (4-6月)				通期見通し (4-3月)
(単位：億円)		FY2024	FY2025	前期比	為替影響調整後	FY2025 最新見通し
内視鏡	売上高	1,271	1,474	+16%	+5%	6,450
	営業利益	222	274	+23%	+5%	1,620
治療機器	売上高	772	873	+13%	+2%	3,630
	営業利益	97	103	+6%	▲3%	545
全社・消去	営業損益	▲93	▲99	-	-	▲405
連結合計	売上高	2,050	2,348	+15%	+3%	10,090
	営業利益	226	275	+21%	+2%	1,760

* 本スライドでは継続事業の金額を表示しています

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2024年8月7日時点)



2025年3月期の内視鏡事業における重点施策

- グローバルにおいて、消化器内視鏡システム「EVIS X1」の更なる拡販に注力
- キヤノンメディカルシステムズとの協業により、次世代超音波内視鏡システムを市場に提供。欧州、日本、アジア・オセアニアを皮切りにグローバル展開を見込む
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化
- 外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の米国（2025年3月期末）及び中国（2026年3月期）での導入を目指し、市場競争力の向上を図る
- インテリジェント内視鏡医療エコシステムのコンセプト及び一部関連製品を欧州で展開予定

2025年3月期
売上高成長率（見通し）

10%

円ベース

6%

為替影響調整後

現在の主力製品	直近の新製品 / 発売予定の製品	中長期のパイプライン
消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">EVIS X1EVIS EXERA III (米国、欧州)EVIS LUCERA ELITE (中国)EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、中国)VISERA 4K UHD (米国、中国)VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">超音波画像診断装置Aplio i800 EUS (米国、欧州、日本、アジア・オセアニア)EU-ME3 (米国) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">VISERA ELITE III (米国) FOCUS AREA インテリジェント内視鏡医療エコシステム ¹ を初めて導入 (欧州)	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none">シングルコース十二指腸内視鏡EU-ME3 (中国) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none">VISERA ELITE III (中国) FOCUS AREA インテリジェント内視鏡医療エコシステム ¹

¹開示上、インテリジェント内視鏡医療エコシステムの業績は外科内視鏡に分類されます 注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2024年8月7日時点)



2025年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリにおいて、臨床上に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

2025年3月期
売上高成長率 (見通し)

8%

円ベース

4%

為替影響調整後

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- レゼクト電極
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州、アジア・オセアニア)

呼吸器科

- シングルコース気管支鏡 (米国)
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア・オセアニア)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 3製品 (米国)
- 3製品 (欧州)
- 1製品 (日本)
- 2製品 (中国)

泌尿器科

- ESG-410 (米国、日本、アジア・オセアニア)
- シングルコース尿管鏡 (米国、アジア・オセアニア、日本)
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System (日本)
- iTind (米国、欧州、アジア・オセアニア)
- レゼクト電極 (中国)
- 硬性尿管鏡 (中国)

呼吸器科

- 新超音波気管支鏡 (米国、中国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- 超音波プロセッサ (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルコース胆道鏡

泌尿器科

- 膀胱鏡
- カメラヘッド
- ビデオプロセッサ

呼吸器科

- 細径超音波気管支鏡
- EVIS X1 気管支鏡 (中国)

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

2025年3月期 第1四半期実績 その他の収益および費用

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)	FY2024	FY2025	増減
その他の収益	6	6	0

主な収益科目			

その他の費用	63	104	+41

主な費用科目	<ul style="list-style-type: none">FDA関連対応費用¹ 50（内視鏡、治療機器）	<ul style="list-style-type: none">総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る一時的な費用 60（内視鏡、治療機器）社外転進支援制度の実施に伴う特別支援金等の費用 26（内視鏡、治療機器、全社・消去）	

¹ 現在は総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る一時的な費用としています * 本スライドでは継続事業の金額を表示しています

2025年3月期 通期業績見通し 連結業績

整形外科事業の非継続事業化による組み替えを除き、期初の見通しに変更なし

(単位：億円)	2025年3月期 5月10日公表見通し(a)	2025年3月期 5月10日公表見通し (組み替え後) (b) ¹	2025年3月期 最新見通し (組み替え後) (c)	(c)-(a)	(c)-(b)
売上高	10,210	10,090	10,090	▲120	0
売上総利益 (売上総利益率)	6,990 (68.5%)	6,910 (68.5%)	6,910 (68.5%)	▲80	0
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	5,010 (49.1%)	4,940 (49.0%)	4,940 (49.0%)	▲70	0
その他の収益および費用など	▲210	▲210	▲210	-	-
営業利益 (営業利益率)	1,770 (17.3%)	1,760 (17.4%)	1,760 (17.4%)	▲10	0
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,985 (19.4%)	1,975 (19.6%)	1,975 (19.6%)	▲10	0
税引前利益 (税引前利益率)	1,710 (16.7%)	1,700 (16.8%)	1,700 (16.8%)	▲10	0
当期利益 (当期利益率)	1,210 (11.9%)	1,210 (12.0%)	1,210 (12.0%)	0	0
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	1,210 (11.9%)	1,210 (12.0%)	1,210 (12.0%)	0	0
EPS	106円	106円	106円	0	0

¹ 5月公表見通しに整形外科事業の非継続事業の分類に伴う組み替えを反映した数値です

キャピタルアロケーション

方針

- ☑ 成長ドライバーへの優先的な投資
- ☑ 安定的かつ段階的な増配
- ☑ 機動的な自己株式の取得

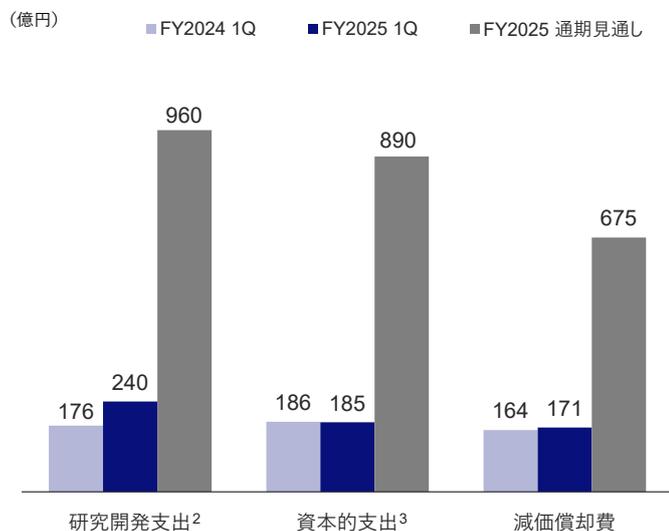
FY2025

- ☑ 注力3領域への積極的な投資
- ☑ 年間配当は2円増の20円を予定
- ☑ 1,000億円の自己株式の取得を実行中



投資実績推移および2025年3月期 通期見通し

第1四半期実績（4-6月）および通期見通し¹



(単位：億円)

	FY2024	FY2025
研究開発支出 ² (a)	176	240
開発費資産化 (b)	26	31
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	151	209

(単位：億円)

	FY2024	FY2025
償却費	21	20
	2024年3月末	2024年6月末
開発資産残高	594	622

¹ 本スライドでは継続事業の金額を表示しています

² 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

³ 資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2024 1Q：43億円、FY2025 1Q：54億円、FY2025通期見通し：140億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは変更無し

為替

(単位：円)	FY2024 1Q	FY2025 1Q	FY2025 見通し
円／ドル	137.37	155.88	151
円／ユーロ	149.47	167.88	163
円／人民元	19.56	21.48	21

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	26	5
ユーロ（1円あたり）	16	5
人民元（1円あたり）	52	27

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています。また、為替感応度（年間）はFY2024Q4実績より算出しています

略語集

略語	英語	日本語
BPH	Benign Prostatic Hyperplasia	前立腺肥大症
EBUS-TBNA	Endobronchial Ultrasound-guided Transbronchial Fine Needle Aspiration	超音波気管支鏡ガイド下針生検
EMR	Endoscopic Mucosal Resection	内視鏡的粘膜切除術
ERCP	Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography	内視鏡的逆行性胆道膵管造影術
ESD	Endoscopic Submucosal Dissection	内視鏡的粘膜下層剥離術